

指導内容

- ・新しい環境や担任に慣れる（新入園児が加わったことや新担任が決まったことにより）。
- ・3歳児クラスに進級したことで自信をもったり、大きい子の遊びや活動に興味をもって見たりする。

※心理状態の意識

- ・ひとつ大きくなったことを感じ、保育室も変わり、そこでの生活を喜ぶ。
- ・新しい先生とのかかわりで緊張したり、どんな先生なのか試そうとする（甘えたり、わざと悪いことをするなど）。
- ・新入園児に興味を示したり、泣く子をなだめている保育者の姿をよく見ている。
- ・新入園児は午睡をいやがる（不安がる）。

保護者としての留意点・役割等

- ・新学期が始まったこの月の土日は、特にゆっくり過ごすようにする（出かけるのは近場か近所の公園にするなど）。また早めに帰宅し、夕方からゆっくり過ごすようにする。
- ・子どものペースに合わせてながら規則正しい生活リズムが身につくようにする。

*保護者をサポートする際のポイント

- ・新学期はどの家庭も緊張感や疲れが出てくるものなので（担任が変わればなおさら）、コミュニケーションを多くとり、話しやすい関係を築く。
- ・3歳児クラス進級による保護者の戸惑いがあれば、その都度対応する。

その他

- ・緊急連絡先の確認 ・健康状態の確認 ・アレルギーの有無（特に新入園児）
- ・アレルギーがある場合、診断書の更新の確認 ・よろしくね会

指導内容

- ・生活の流れがほぼわかり、自分からやろうとする。
- ・生活環境や保育者に慣れて、自分なりに生活の見通しがもてるようになる。
- ・保育者に自分の要求や状況を伝えられる。

※心理状態の意識

- ・連休明けと新学期1ヶ月がたち、疲れがみられ、注意も散漫になる。イライラしたり、ぼーっとするなどの様子が見られる。
- ・自分なりの遊びや考えを友達に伝えて一緒にやろうとする。また友達の遊びに参加しようとする。

保護者としての留意点・役割等

- ・仕事の仕方や量を調節し、早めに迎えに来られるときは迎えに来るなど、疲労をためないようにする（特に長時間保育児）。
- ・慣れると園に行きたくないと訴えることもあるので、気持ちを受け止めるようにする。
- ・食事の仕方やしつけなどは、担当保育者に聞きながら園での方法を知り、家庭での方法を考える。

*保護者をサポートする際のポイント

- ・生活習慣の指導は、家庭との連絡を密に行う。園での子どもの様子や園側の援助は、具体的に前向きな言い方をし、保護者に安心感を与え、意欲を引き出す。

その他

- ・子どもの日の集い

指導内容

- ・園生活において、してはいけないこと、危険なことが先生の話からわかる。
- ・砂や泥、水遊びなどを楽しみ、感触を味わう。
- ・衣服が汗ばんだり、汚れたら自分で着替える。

※心理状態の意識

- ・園生活に慣れが出てきて、事故・ケガが最も起こりやすくなる。また、がまんができなくなったり、泣いたりなど、心身ともに調子を崩すことがある。
- ・自分の思いが先行しがちなので、友達とのトラブルも起こりやすい。
- ・3歳児クラスになり、砂・泥、水遊びがダイナミックになり、大いに楽しむ。

保護者としての留意点・役割等

- ・梅雨や気温の変化に注意を向け、衣服の調整に心を配るようにする。
- ・汚れる遊びが増えるので、着替えの衣類が足りなくならないように多めに準備する。
- ・家庭では食中毒などに十分注意する。

*保護者をサポートする際のポイント

- ・一人ひとりの体調を考慮し、家庭と連絡をとりながら衣類の調整をする。
- ・午睡や夕方の様子などを見ながら、子どもの様子、特に疲労の状況などを保護者に伝える。

その他

- ・衣服の調節や体調などに注意する。

指導内容

- ・水やプールでの遊びを楽しむ。
- ・ボディペインティングなど、夏ならではのダイナミックな遊びを経験する。
- ・汗をふいたり、泥などで汚れたら自分で手足を洗う。
- ・午睡をし、休養を十分にとる。

※心理状態の意識

- ・水やプールでの遊びがいやで、通園をいやがる子もいる。
- ・プールでの遊びで、水に顔を付けたり体を支えてもらって浮いたりできるようになると自信がつき、繰り返しやりたがる。
- ・3歳児クラスでの生活が広がり、年上の子との関係も定着し、一緒に遊んだりする。

保護者としての留意点・役割等

- ・水やプールでの遊びの可否はあくまでも健康状態で判断し、子どもの言い分で判断しない。
- ・水やプールでの遊びをいやがったときは、何がいやなのか具体的に話を聞き無理はしないこと。ただしわがママとの区別をはっきりさせる。
- ・長い髪はきちんとまとめる。または短くする。
- ・つめ切り、耳あかなど、清潔にいっそう気をつける。
- ・水やプールでの遊びは体力を消耗するので、朝食をしっかりとり、早めに寝るなどに留意する。

*保護者をサポートする際のポイント

- ・水やプールでの遊びは無理なく進めていることや子どもの様子を画像などで知らせ、保護者が安心できるようにする。
- ・長時間保育であることと水やプールでの遊びは体力を消耗することを話し、朝食をしっかりとり、早めに寝るように伝える。

その他

- ・プール開き ・七夕

指導内容

- ・夏ならではの遊びを十分楽しむ（洗濯ごっこや色水遊びなど）。

＊＊
心理状態
意識

- ・暑さでの疲れが見られることがある。夕方以降、ごろごろする姿も見られたりする。
- ・午睡の寝つきがいい。またなかなか起きられない子もいる。
- ・大きい子に親しみをもって遊ぼうとする。

保護者としての留意点・役割等

- ・食欲がないからとのど越しのいいものばかりを食べたり、水分をとりすぎたりすることのないよう気をつける。冷たいものをほしがすが、とり過ぎないように注意する。
- ・暑いと十分な睡眠がとれず、疲れが抜けないこともあるので、冷房を適度に使用する。
- ・仕事で休みがとれるときは、夏ならではの体験を子どもができるように考える（無理のないプランで）。

＊保護者をサポートする際のポイント

- ・熱中症に気をつける（夕方の日差しや気温に留意する）。
- ・家庭でも水分補給を忘れないように伝える。
- ・食欲がおちてきたら無理をさせず、様子を見るように伝える。
- ・休みの子どもの多い時期は幼児組共同の活動も行うことがあることを伝え、保護者が不安をもたないようにする。

指導内容

- ・外で十分に遊び、体を動かす心地よさを感じる。
- ・よりいっそう生活がスムーズになり、自分のことは一通りできるようになる。
- ・体調が悪いときも、状況を自分なりに保育者に伝えられる。

＊＊
心理状態
意識

- ・自分の思うようにしたい、相手のものがほしいということなどからトラブルが多くなる。
- ・自分でできることは自分でしようとし、できた喜びを感じる。
- ・保育者や友達にほめられたり認められることにより、いっそう張りきる。

保護者としての留意点・役割等

- ・簡単にできるお手伝いをさせ、できる範囲で家族の役に立つ喜びを経験できるようにする。
- ・衣服の調節や睡眠の状況などに留意する。
- ・自分で身のまわりのことはできるようになってくるが、まだ不十分な点も多いので、さりげなく援助して自信がもてるようにする。
- ・崩れた生活のリズムを取り戻すように気をつける。

＊保護者をサポートする際のポイント

- ・友達との遊び、生活習慣などがそれなりにできてくるが、まだ不十分でトラブルややり残しも多い。自分から気づくように配慮する。
- ・友達とのトラブルでも譲ったり思いやったりする動きが見られたときは、大いに成長を喜び、保護者にも伝える。

その他

- ・コスモスの会
- ・プールじまい

指導内容

- ・さまざまに体を動かして遊ぶ（走る、跳ぶ、スキップするなど）。
- ・自分の好きな遊びと一緒にやりたい友達と楽しむ。
- ・秋の自然に十分親しんで遊ぶ。
- ・運動会の取り組みに喜んで参加する。

＊＊
心理状態
意識

- ・広い場で思いきり体を動かす心地よさや追いかけてこのおもしろさを感じる。
- ・自分の気に入っている友達やおもしろそうなことをしている友達と一緒にいたり、同じようなことをして楽しんだりしようとする。
- ・虫や草花などに興味をもつ。

保護者としての留意点・役割等

- ・夏の疲れが出てくるころなので、生活リズムを整え、ゆっくり過ごすように心がける。
- ・運動会の取り組みなど、プレッシャーを感じる子もいるので、ときどき家庭でも話を聞いて、安心して参加できるようにする。
- ・家庭でも子どもの体調によって、また興味・関心に即して自然に親しむ機会をつくる。

＊保護者をサポートする際のポイント

- ・夏の疲れが出てくるころなので、体調に配慮するように保護者に伝える。
- ・運動会の取り組みや準備、参加などを保護者に伝えるとともに、協力を依頼する。

その他

- ・園外活動（遠足）
- ・運動会

指導内容

- ・まわりの幼児の動きを見て、自分のすべきことに気づき、やってみようとする。
- ・運動会の楽しさの経験から、友達と楽しく遊ぶことができるようになる。

＊＊
心理状態
意識

- ・自分の好きな遊びを繰り返し楽しみ、遊びの持続時間が長くなる。
- ・保育室にあるものの場所や使い方がわかってきて、自分の使いたいものを使いたい場所に運んで遊ぼうとする。
- ・遊びでも、自分のやりたいこと、興味のあることがはっきりしてくる。

保護者としての留意点・役割等

- ・寒くなってくるが、必要以上に厚着にならないように活動しやすい服装にする。
- ・戸外で遊ぶときは、衣服の調整ができるように上着を用意する。
- ・衣服などの持ち物は子どもにわかるように説明をして準備をし、子ども自身が判断して動けるようにする。

＊保護者をサポートする際のポイント

- ・子どもが自分の思いや要求を安心して表現でき、またそのことをわかってもらえたという満足感をもてるように援助する。
- ・家庭でも簡単な仕事を手伝ったり、自分のことをしたりする経験を通して自信をもつことができるように、内容や方法などポイントを伝える。

その他

- ・焼きいも会
- ・園外活動（遠足）
- ・お楽しみ会

指導内容

- ・他の幼児とかかわったり、触れ合ったりしながら同じ場で遊ぶ楽しさを知る。
- ・一緒に遊びたい友達と遊ぶ楽しさを実感する。

※心理状態

- ・自分なりに思いついたことを、保育者に手伝ってもらいながら実現していく楽しさを感じる。
- ・自分の要求をいっそうはっきりと保育者に伝えて、思いを実現しようとする。

保護者としての留意点・役割等

- ・年末で保護者の意識が仕事にいきがちになるが、そういうときにこそわが子に目を向けて、心身の状況に気を配る。
- ・仕事が忙しくなるようであれば、家族で話し合い、子どもの負担にならないように工夫する。
- ・年末ならではの家族との楽しい体験に期待をもてるよう、子どもに伝える。

※保護者をサポートする際のポイント

- ・生活習慣など、雑になっているところを保護者に気づかせながら、援助する。
- ・家庭でも子どもが自分のしたい遊びや活動に向けて、見通しがもてるような言葉をかける。

その他

- ・もちつき

指導内容

- ・自分の思いを自分なりの方法で表しながら遊びを楽しむ、他の幼児とかかわる心地よさを感じる。
- ・みんなと一緒に遊ぶ中で、自分なりに考えたことを実現するおもしろさを楽しむ。
- ・冬の自然に親しんだり、正月遊びを楽しむ。

※心理状態

- ・同じ場所にいたい、集まりたいという気持ちが強くなり、声をかけて遊ぼうとする。
- ・目的をもっていろいろな遊具を持ち出して遊ぼうとする。
- ・譲ったり順番を守ったりできるようになってくる。

保護者としての留意点・役割等

- ・友達関係ができてくるとトラブルも多くなるので、話をよく聞き気持ちを受け止める。
- ・自分の言い分が通っても、相手が泣いたり不満をもったりしていることに気づいてくるので、一方的に責めたりせず、自分で判断できるように様子を見る。
- ・うがい、手洗いなどは率先して保護者が行う。

※保護者をサポートする際のポイント

- ・冬の感染症に留意するよう、保護者にも伝える。
- ・手洗い、うがいをしっかりこまめに行うように助言する。
- ・たこ揚げやかかるた、福笑いやはねつきなど、自由に遊べるように準備するとともに、家庭でも楽しむように助言する。
- ・勝ち負けのある遊びでは、「勝つ」と「負ける」ことの両方の気持ちが体験できるよう、家庭の協力が得られるようにする。

指導内容

- ・自分の思いやイメージをもち、自分なりに言葉に表して遊ぶ。
- ・人前で演じたり、活動を評価してもらうことに喜びを感じる。

※心理状態

- ・自分の思いを言葉にして遊ぶようになる。また2～4人で遊ぶ中で、自分の思い通りに遊びを展開しようとする子が出てくる。
- ・保育者にも自分の気持ちや要求を細かく伝えるようになる。

保護者としての留意点・役割等

- ・思うように遊べなかった思いを、不機嫌になる、あたりちらすなどさまざまな姿で表出することもあるので、話をよく聞いて、気持ちを受け止めるようにする。
- ・発表会などの取り組みがある場合は、あまりプレッシャーを与えないようにして、楽しみにしていることを子どもに伝える。

※保護者をサポートする際のポイント

- ・寒いと暖房を使いがちになるので、楽しい外遊びができるように工夫する。
- ・暖房でのやけどには留意する。
- ・個々の思いはまず保育者が受け止め、機会をとらえて関係のある子たちに伝える。また、必要に応じて保護者にも伝え、誤解のないようにする。

その他

- ・節分
- ・つくしんぼの会

指導内容

- ・自分の思いやイメージをもち、自分なりに表す楽しさを感じる。
- ・相手によって、また遊びの場によっては自分の考えや思いを相手にわかるように伝えられるようになる。

※心理状態

- ・自分のイメージしたものや遊びに必要なものを、簡単なものなら自分なりに作り、それを使って遊ぶ喜びを感じる。

保護者としての留意点・役割等

- ・気持ちを寄せ合う友達とは、あまり言葉を交わさなくても遊びが進んでいくこともあるが、言葉を獲得していく時期でもあるので、大人は日常に交わされる言葉を多くかけるように心がける。

※保護者をサポートする際のポイント

- ・進級することへの期待感を十分もてるように、また遊んでくれた年長組の子どもたちに感謝しながら送り出せるよう、さまざまな企画に意識して参加するようにする。
- ・大きくなったことを伝え、進級する喜びを家族とともに喜ぶ。

その他

- ・ひなまつり
- ・園外活動（遠足）

指導内容

- ・新しい保育者や友達に親しみの気持ちを持ち、新しい環境の中でも安心して過ごせるようになる。
- ・進級したことに喜びを感じ、小さい子にも関心をもつ。
- ・自分のことは自分でやろうとし、一通りできるようになる。

*子どもの心理状態

- ・不安や緊張を感じる子もいる。
- ・環境に慣れている子は安心して自分の遊びを楽しめる。
- ・身近な自然に触れたり見たりして、遊ぶことを楽しむ。

保護者としての留意点・役割等

- ・進級した様子をさりげなく問いかけ、子どもに緊張や不安がないか、気をつける。
- ・外出の際は公共の場での行動の仕方を知らせ、経験を通して徐々に規範意識や社会性が身につくようにする。

*保護者をサポートする際のポイント

- ・園生活に慣れていても、新学期は親子ともに緊張と疲れが出てくるものなので、コミュニケーションを多くとり、担当が変わった場合には特に話しやすい関係を築く。
- ・4歳児クラス進級による保護者の戸惑いがあれば、適切に対応する。

その他

- ・よろしくね会

指導内容

- ・気持ちが安定した中で友達と積極的にかかわる。また一緒にやることの楽しさを感じるようになる。
- ・やりたい遊びを提案したり、展開も工夫するようになる。

*子どもの心理状態

- ・親しい友達のメンバーがなんとなく決まってくるが、まだ気持ちがそろわず流動的である。
- ・大勢で行う遊びの楽しさを感じるようになる。また一人で集中して遊ぶ子もいる。

保護者としての留意点・役割等

- ・大勢で遊んだり、競争やゲーム遊びなどを経験するので、思い通りにならなかったり、つまらなさを感じたりして神経が疲れる子も多い。帰宅後は気持ちの安定を図るとともに、楽しい話をしてきたときは共感する。

*保護者をサポートする際のポイント

- ・生活習慣の指導は、引き続き家庭との連絡を密に行う。子どもの様子や園側の援助は、具体的に前向きな姿勢で示し、保護者に安心感を与え、意欲を引き出す。

その他

- ・こどもの日の集い
- ・園外活動（遠足）

指導内容

- ・自分のやりたい遊びを見つけ、友達に自分なりに思いを伝えながら楽しむ。
- ・自然物や廃材など、さまざまな材料をいろいろ工夫しながら遊ぶ。
- ・いろいろな材料や用具を使って、自分なりに描いたり作ったりすることを楽しむ。

*子どもの心理状態

- ・友達同士でも作品を見せ合ったり、同じようにやってみたりして相手の存在を知る。
- ・砂や水での遊びで、砂が崩れたり水がしみ込んだりする変化に、不思議さを感じたり感触を楽しんだり、心地よさを感じる。

保護者としての留意点・役割等

- ・子どもが作りたいものに必要な廃材収集に協力する。
- ・気候的にも気持ちがゆるんだり疲労を感じたりする時期でもあり、思いがけないケガをすることもある。あまりせかしたりせず、落ち着いて登降園するように心がける。

*保護者をサポートする際のポイント

- ・体調を考慮し、家庭と連絡をとりながら衣類の調整を依頼する。
- ・午睡や夕方の様子などを見ながら、子どもに疲れが残るようであれば、保護者に伝えて家庭でも配慮できるようにする。

指導内容

- ・いろいろな材料や用具の扱い方に慣れ、思ったことや考えたことなどを少しずつ表現するようになる。
- ・身近な動植物に興味をもって、観察したり世話をしようとしたりする。
- ・夏の健康について話を聞き、自分なりに気をつけようとする。
- ・プールでの遊びのルールや決まりごとを知り、守って遊ぶ。

*子どもの心理状態

- ・砂・土・水などに触れ、感触を楽しんだり、水の心地よさを感じたりする。
- ・友達と触れ合いながら遊ぶ楽しさを感じる。
- ・保育者の話を聞きながら、夏の健康について考え、休息をとる大切さに気づく。
- ・気候の「不快さ」と、水にかかわる「快」とを体験する。

保護者としての留意点・役割等

- ・園での栽培物に保護者も興味をもち、子どもと一緒に水をまいたり収穫したものを賞味したりして、家族とともに生長や収穫の喜びを味わうようにする。
- ・家庭での夏の生活に気をつける。休息を十分とること、また食欲のないときに冷たいものとりすぎなどはよくないことを子どもに話す。
- ・旅行や帰省など、日常では体験できない経験ができるようにする。

*保護者をサポートする際のポイント

- ・水やプールでの遊びは無理なく進めていることや子どもの様子を画像などで知らせ、保護者が安心できるようにする。
- ・長時間保育であることと水やプールでの遊びは体力を消耗することを伝え、朝食をしっかりとり、早めに寝るようにするなど、健康維持のための協力を要請する。

その他

- ・プール開き
- ・七夕

指導内容

- ・水や砂、プールなど、夏ならではの遊びを友達と十分楽しむ。
- ・休息をとることや、汗をふく、着替えるなど、援助や助言があれば、自分からするようになる。

※心理状態

- ・友達ができることと、自分ができることやできないことを比べ、自分との違いに気づく。
- ・物語や空想の世界に浸り、おばけへの恐れなどを感じる。
- ・プール遊びで自信をつけるとともに、いやがる子は少なくなる。

保護者としての留意点・役割等

- ・子どものつぶやきに肯定的にこたえる。
- ・絵本はストーリーを吟味し、あまり刺激の強い話や絵柄は避ける。特に、就寝前には注意する。
- ・夏ならではの家族で過ごす体験を十分ににする。
- ・引き続き、睡眠不足などの疲れを残さないように気をつける。

※保護者をサポートする際のポイント

- ・水分補給を忘れずにして、熱中症に気をつける。また日中の外出を避けるなど、保護者の注意を喚起する。
- ・盛夏に応じた生活の仕方、留意事項などのポイントをわかりやすく整理して保護者に伝え、健康管理が十分できるようにする。

指導内容

- ・自分の気持ちを相手に伝えたり、話を聞いたりして、互いの気持ちに気づくようになる。
- ・戸外で十分に体を動かすことを楽しんだり、友達と動いたりすることを楽しむ。

※心理状態

- ・経験したことやテレビで見たことなどを再現し、イメージを表した遊びを楽しもうとする。
- ・友達と走ったり、跳ったりする楽しさを知り、意欲をもって取り組み、快さを感じる。

保護者としての留意点・役割等

- ・メディアでの遊びも、子どもと時間などを約束しながら行うようにする。
- ・夏の疲れが残っていないか常に気を配り、安定した生活や体力が保てるよう、休養や食生活に気をつける。
- ・自分の身のまわりを整えることや生活習慣などを自分からできるよう、自信をつけるようにする。

※保護者をサポートする際のポイント

- ・友達との遊び、生活習慣などが自分の力でできてくるが、自信をなくすときもあるので、さりげなく励まし、意欲を高める。そのための言葉のヒントや励ましの言葉などを保護者に例示する。
- ・友達とのトラブルはいずれ自分たちで解決できるよう、その場に応じてヒントを与えたり大人がモデルとなり示したりして、見守る。

その他

- ・プールじまい

指導内容

- ・興味や思いつきをきっかけに遊びを広げ、自分を十分に出して楽しむようになる。
- ・秋の自然の変化に気づき、動植物などに親しみながら遊ぶ。
- ・運動会に喜んで参加し、自分なりのめあての達成を感じる。

※心理状態

- ・今まで経験した遊びや活動内容を自分の遊びに取り入れると、いっそう遊びが楽しくなることを感じる。
- ・自分のめあてに向かって体を動かしたり、友達と同じ動きをしたりすることに喜びを感じる。

保護者としての留意点・役割等

- ・子どものイメージやアイディアにおもしろさを感じ、共感する。
- ・子どもが意欲的に取り組んでいるときは励ましながら見守り、自信をなくしたりつまづいたりしているときはさりげなく励まして、やる気が持続するようにする。
- ・運動会を楽しみにしていることにプレッシャーを与えないようにする。

※保護者をサポートする際のポイント

- ・夏の疲れが出てくるころなので、体調に配慮するよう、保護者に伝える。
- ・運動会の取り組みや準備、参加などを保護者に伝えるとともに協力をお願いする。

その他

- ・園外活動（遠足）
- ・いも掘り
- ・運動会

指導内容

- ・身近な自然と十分触れ合い、興味をもって見たり、触れたり、考えたりして遊ぶことを楽しむ。
- ・ごっこなどイメージを表す遊びや、遊びに必要なものを作ったり使ったりすることを楽しむ。

※心理状態

- ・「こうかな？やってみよう」「へえ？こうなんだ」など、興味をもったことに対して試行錯誤しながら自分なりの結果を得られると、喜びを感じる。
- ・保育者が言うことや期待されていることに気づいて、意欲をもつ。

保護者としての留意点・役割等

- ・結果よりも過程を大切にし、大人も「なんでそうなったのかな」「どうしてそう思ったの？」などと質問し、ともに考える時間と機会をもつ。また考えたことを言葉に表すと相手に伝わり、喜びが倍増する経験がもてるようにする。

※保護者をサポートする際のポイント

- ・子どもの思いや要求をきちんと聞き、その喜びをもとにして十分表現できるように援助する。
- ・家庭でも子どもなりの役割をもって生活したり、自分のことをさせたりするなど自信をもつことができるように具体的な方法、ポイントなどを伝える。

その他

- ・焼きいも会
- ・園外活動（遠足）
- ・お楽しみ会

指導内容

- ・ 共同の遊具を大切にしたり、みんなで譲り合って使ったり片付けたりする。
- ・ 年末年始ならではの生活や遊びを十分に楽しむ。
- ・ 友達と充実して活動したいという思いもあり、共通の目的も少しずつもてるようになってくる。

* 子どもの心理状態

- ・ 身近な人の気持ちがわかるようになってくる。
- ・ 友達ともうまく遊べるようになり、相手に応じて気持ちや動きを合わせようとする。
- ・ 同じ遊びをする友達と考えや思いの行き違いから、トラブルが複雑になってくる。

保護者としての留意点・役割等

- ・ 子どもの玩具選びはよく考えて、ほしがるものをすぐに与えるのではなく、発達を考えるようにする。またゲームなどは遊びすぎないように子どもと遊び方とをり決める。
- ・ 自分の考えを明確にもつようになると、友達と考えや気持ちが行き違い、トラブルも多くなる。一方的に決めつける解決ではない方法をとる。また相手の保護者とのトラブルに発展しないように配慮する。

* 保護者をサポートする際のポイント

- ・ 生活習慣など、雑になっているところを子ども自身が気づくように家庭と同じ方向で援助する。そのためにも連絡を密にする。
- ・ 自分のしたい遊びや活動に向けて見通しをもち、子どもなりの判断ができるようにする。そのためにはじっくりと考えを聞くように家庭に伝える。

その他

- ・ もちつき

指導内容

- ・ いろいろな遊びに興味をもち、自分なりの力を発揮して活動に取り組み、やり遂げる楽しさを感じる。
- ・ 正月ならではの遊びを十分に楽しみ、勝ったり負けたりする経験をする。

* 子どもの心理状態

- ・ 仲のいい友達と一緒にイメージをふくらませ、自分を十分発揮して遊び、友達の存在を感じる。
- ・ 仲のいい友達と遊びたい気持ちが強いあまり、他の子と遊びに入れようとしなないときもある。
- ・ 年長の子の活動や少し難しい活動にも興味が出てくる。

保護者としての留意点・役割等

- ・ 正月ならではの生活が楽しめるよう、伝承されてきた遊びを家庭でも取り入れるようにする。（たこ揚げやコマなど）。
- ・ 風邪など冬の感染症も多いので、家庭でも食生活や衛生に気をつける。

* 保護者をサポートする際のポイント

- ・ 冬の感染症に留意し、子ども自身が進んで手洗い、うがいができるように意味を知らせ、理解して行動できるようにする。家庭でも同じ姿勢で取り組むように伝える。
- ・ 大人自身も手洗い、うがいをしっかりこまめに行い、モデルとする。
- ・ たこ揚げやかると、福笑いやはねつきなど、自由に遊べるように準備する。ときには保護者も一緒にできる機会を作り、それぞれの活動の意義を伝えるようにする。

指導内容

- ・ 友達と一緒に試したり、工夫して遊ぶ楽しさを知る。
- ・ 遊びの中で文字や数、量や大きさなど、さまざまなことに気づいて興味をもつ。
- ・ 冬の自然に興味をもち、十分親しんで遊ぶ。

* 子どもの心理状態

- ・ 友達とのつながりやかかわりがいっそう深まり、言葉のやりとりも多くなる。
- ・ いつも遊んでいる友達との結びつきが強くなる一方で、他の子に強気な発言をしたり、「そんなことするなら入れてあげない」などと、相手が傷つくことはわかっているにもかかわらず言うことがある。

保護者としての留意点・役割等

- ・ 寒い・暑いという感覚が育つように言葉をかけ、寒いとき、暑いときはどうするかも伝え、自分で判断して衣服が調節できるようにする。また脱ぎ着しやすく、扱いやすいものを用意する努力をする。
- ・ 冬の健康について家庭でも話し合い、子どもが理解できるようにする。

* 保護者をサポートする際のポイント

- ・ 寒いと暖房を使いがちになるので、外遊びの楽しさも知らせ、自分から活動できるように工夫する。
- ・ 体を動かすことの効用を保護者に伝え、家庭でも戸外の活動が楽しめるように助言する。
- ・ 子どもに伝えたい内容を精選して、必要に応じて個々の思いが全体の子どもに伝わるよう、機会をとらえて話しながら、子ども同士で意見が出るように促す。

その他

- ・ 節分
- ・ つくしんぼの会

指導内容

- ・ 自分自身の成長を感じ、年長児になることがわかり、期待感をもつ。
- ・ 生活の中では当番など交代して果たす仕事があることがわかり、意欲的にしようとする気持ちや意気込みをもつ。

* 子どもの心理状態

- ・ 自分でできることが多くなり、年長クラスになればさらにできることが増える（今までと違う遊具、用具が使える）ことがわかり、喜ぶ。
- ・ 年長組の仕事を教えてもらったり、送るためのイベントに参加したりして、年長組になる期待もふくらむが、不安を感じるなど、複雑な状態でもある。

保護者としての留意点・役割等

- ・ 友達同士の力関係により、微妙に友達関係のメンバーに変化が現れる。子どもの話をよく聞き、認めることは大切だが、うのみにしたり相手の子どもに「仲よく遊んでね」などと言ったり、保護者が出ていけないようにする。不明な点は園に問い合わせ、問題が大きにならないようにする。
- ・ 家庭でも年長組になることにあまりプレッシャーを与えないようにする。

* 保護者をサポートする際のポイント

- ・ 進級することへの期待感を十分もてるように、また遊んでくれた年長組の子どもたちに感謝しながら送り出せるように、さまざまな企画をし、自分の成長が感じとれるようにする。一人ひとりの家庭へも、成長が感じられるように具体的な姿を知らせる。
- ・ 園全体の取り組みや活動の中で、一人ひとりが自信をもつことができるように援助する。また、それぞれの活動の意義を家庭にも知らせる。

その他

- ・ ひなまつり
- ・ 園外活動（遠足）
- ・ 就学祝い会

指導内容

- ・年長組になった喜びや自信を感じ、意欲的に活動するようになる。
- ・年少者への気遣いもするようになり、優しくかわる。

※心理状態の意識

- ・長期間のかかわりの中で、友達の特性を感じとり、相手に合わせた対応をしようとする。
- ・子ども同士のかかわりが深まってきていることもあり、自分なりの受け止め方をするものも多く、「この子はこういう子」という思い込みで見えてしまうことがある。
- ・園に長時間いることで疲れがあるとイライラしたり、ささいな出来事にも素直に対応できなくなることもある。
- ・担任が変わると、興味津々で話しかけてくる子もいるが、無関心な子もいる。

保護者としての留意点・役割等

- ・期待と自信を抱いていることを理解し、子どもから話を聞いたり、他の子の話もお迎え時に聞いたりして、いろいろな子どもの話を聞く姿勢をもつ。また関係が深まっている分、複雑になっていて、わが子の話だけをうのみにできない場合も多いので、不明な点は園に確認する。
- ・保護者同士のコミュニケーションをもつようにする。相手の保護者側からの見方もあるので、両方から理解するように努める。

※保護者をサポートする際のポイント

- ・子ども同士のちょっとしたトラブルが出てくるが、互いの話だけではなく、まわりにいた子どもの話も聞き、保育者が見ていない場合は、情報収集に努める。保護者に話をするときは、行き違いや問題点、原因さらにどう指導したかなど、細かい点まで話をして、安心できるようにする。
- ・就学までの一年を充実して過ごせるよう、家庭とともに考える機会をもち、また保護者同士のつながりが深まるようにする。

その他

- ・よろしくね会

指導内容

- ・自分のやりたいことを実現するために友達に思いを伝えたり、一緒にやろうと誘ったりするなど、見通しのある行動をするようになる。
- ・種をまいたり世話をしたりして、生長を期待する。

※心理状態の意識

- ・友達関係が安定し、クラス内が落ち着いてきて、少人数でのゲームから少し大きな集団でのゲームや競争の楽しさを感じる。
- ・相手によって、悔しかったりうらやましかったりなどの複雑な感情を抱く。
- ・小さい子にも目が向き、年長組として進んで面倒をみようとしたり、役割を果たそうとしたりする。

保護者としての留意点・役割等

- ・子どもが自分の考えを実現するのに必要なものを要求したときや迷っているときは、要求に応じたり一緒に考え合ったりする。また作ったものは、子どもと相談しながら飾る期間や処分の方法を決め、一方的に処分しない。
- ・子どもの状況に応じて毎日できるお手伝いを決め、継続できるようにするとともに、役に立つ喜びを感じられるように、感謝の気持ちを伝える。

※保護者をサポートする際のポイント

- ・作ったものの処分は、処分する前に作品をデジカメで撮り、処分後も画像で見たり飾ったりして、気持ちを大切にしていることを子どもに表明することも大切であること、そこからの育ちなども保護者に知らせる。

その他

- ・子どもの日の集い
- ・園外活動（遠足）

指導内容

- ・友達の様子から刺激を受けて、自分もやってみようとして挑戦したり、自分の活動の一部を取り入れたりする。
- ・自分の身じたくは必要に応じて自分で手早くできるようになる。

※心理状態の意識

- ・今まで経験した遊びを自分の遊びのヒントにしたり、新たな工夫を加えたりする。
- ・今までの友達関係が変化する。中心となっていた子どもだけでなく、少しずつ他の子どもも提案するようになるので、力関係が微妙に変化する。
- ・自然物への興味もあり、熱中する子もいるが、まったく興味を示さない子もいる。
- ・友達の前で話すことに喜びを感じ、また相手に伝わるように意識するようになる。

保護者としての留意点・役割等

- ・友達関係が微妙に変化するので、子どもの話に耳を傾け、聞き上手に徹する。またこんな見方もできる、と子どもが新たな視点から考えられるようなことも提示してみる。
- ・園に行きたくないとお昼寝があるから」「～がやりたくないから」「友達がいじめるから」ともっともらしい理由を言うが、うのみにしないで保育者に相談したり、事実を確認したりする。

※保護者をサポートする際のポイント

- ・保護者が聞き上手になれるように「どうしてそう思ったの?」「どうすればよかったのかな?」など、「どうして?」と順序よく探ることで子どもの気持ちや頭の中が整理されていくことを話し、サポートする。
- ・「みんなの前で話す」ことは勇気のいること、家庭での会話の楽しさや安定感が支えになることを家庭に伝え、まず聞いてもらったうれしさを体験できるようにする。

その他

- ・お楽しみ会

指導内容

- ・いろいろな活動に自分なりのめあてをもって、取り組むようになる。
- ・友達の思いを聞いたり、一緒に考えたりして、遊びを進めていくようになる。
- ・クラス全体の活動にも自分としてのめあてをもって参加し、力を発揮するとともに友達とのつながりや一体感を感じる。

※心理状態の意識

- ・プールでの遊びで自分のめあてに向けて挑戦し、やり遂げた充実感から自信をもつ。
- ・夏祭りなど、クラス全員で目的に向かって意識的に取り組み、充実感を味わう。
- ・当番活動などに責任感をもち、やり遂げようとする自覚をもつ。

保護者としての留意点・役割等

- ・家庭での夏の遊びや旅行の計画を子どもと話し、計画に子どもも参加させ、家族の一員である喜びを感じることができるようにする。また家族内でのめあて、見通しをもって過ごす経験もできるようにする。
- ・暑くなると体調を崩しやすいので、子どもの様子をよく観察して声をかける。
- ・めあてをもって活動に取り組む姿を励まし、自信につながるようにする。

※保護者をサポートする際のポイント

- ・自分の考えや思いを主張すると同時に、他の人の考えや思いにも気づくようにしたいころなので、保護者に伝えて協力を得る。
- ・責任をもって取り組むようになったこと、挑戦していることなどを保護者に伝え、一人ひとりの成長が実感できるようにする。
- ・園での飼育・栽培物には保護者にも関心をもってもらうように話したり、掲示にいかす。

その他

- ・プール開き
- ・七夕

指導内容

- ・活動時間や休息などを意識しながら夏の遊びを十分に楽しみ、さまざまな発見をしたりいろいろ試したりする。
- ・夏の健康について考え、自分はこうしたらいかががわかって行動するようになる。

※
心理
状態
の
意
識

- ・生活に自信がついてくることで、小さい子の面倒をみることや飼育・栽培物の世話などに喜びを感じるようになる。
- ・家族とともに楽しい時間を過ごし、家族の愛情やつながりを感じる。

保護者としての留意点・役割等

- ・プールでの活動に挑戦している姿を認め、努力の結果を共感する。
- ・家庭では、お手伝いなど生活の中で子どもにもできる役割を相談しながら決め、自分から果たすように応援する。その際、「助かる」など保護者としての感謝の気持ちを伝えて、やり遂げた誇らしさが感じられるようにする。

*保護者をサポートする際のポイント

- ・家庭での旅行などの楽しかったことをクラスのみんなの前で伝えるときに保育者がサポートできるように、あらかじめ家庭から情報を得ておく。
- ・今までの生活リズムや生活習慣が崩れることのないよう、また自分から意識して行うように家庭に再確認する。

指導内容

- ・夏休みに体験したことをさまざまな方法で表現したり、遊びにいかしたりして友達と部分的に共感する楽しさを感じる。
- ・友達とルールを守って遊ぶ楽しさやルールの必要性に気づく。
- ・さまざまな人々とのかかわりを通して、相手を尊重することに気づく。
- ・運動会が近いことを知り、年長児としての気構えや意欲をもって活動を進める。
- ・グループやクラスの友達と一緒に、体を十分動かして遊ぶ楽しさを味わう。
- ・花壇や畑に出かけ、秋まきの草花や野菜の種まきなどをして、植物の生長に興味をもつ。
- ・生活のリズムを整え、友達と戸外での遊びが十分楽しめるようにする。

子
ど
も
の
意
識
・
心
理
状
態

- ・通常の園生活が始まり、ほとんどの幼児は友達と会えたことを喜ぶ。緊張した様子の子どももいるが、すぐに自分のペースを取り戻していく。
- ・場作りや遊具が媒介となって一緒に作ったり、言葉や動きでやりとりをしたり、イメージがつながったりするなど、かかわりを楽しむ様子が見られる。
- ・クラス全体での取り組みに意欲的であるが、少し複雑な話し合いになると意識がなかったり、持続できなかったりする子どももいる。

保護者としての留意点・役割等

- ・夏の疲れが出て、精神的に弱くなったリグズグズしたり体調を崩す時期なので、無理なく過ごせるようにする。
- ・運動会への取り組みは年長児として大切な体験の場であるが、緊張感や不安をもつ子もいるので、家庭でもプレッシャーにならない程度に話題にし、様子を見る。自信のないことは取り組まない、とかたくなになる子については保育者と相談する。

*保護者をサポートする際のポイント

- ・さまざまな活動で自信をつける機会も多いが、ときに自信をなくすこともある。友達の言葉に傷つくこともあり、適時フォローする必要があるので、家庭への連絡を密にする。
- ・運動会に必要な取り組みには保護者に協力を依頼する。

その他

- ・コスモスの会
- ・プールじまい

指導内容

- ・友達といろいろな運動遊びに挑戦する中で自分なりに力を出したり、友達と競い合ったりしながら、互いのよさを感じる。
- ・運動会に向けて、友達と力を合わせたり自分なりに努力したりして、クラスや園全体にかかる役割を分担して取り組み、役に立つうれしさを感じる。
- ・年長児として運動会にかかわる活動を責任をもってやり遂げ、自信と満足感をもつ。
- ・身近な秋の自然の変化に目を向けたり、植物の変化に興味をもったり、開花に期待をこめて世話をしたりする。

子どもの意識・心理状態

- ・運動会にかかわる活動が自然に子どもたちの中に入り込み、友達と踊ったり、リレーをしたりして楽しむ様子が見られる。
- ・自分のしていることを友達にアピールしたり、友達のしていることに興味を示し、やり方を聞いたりするなどの刺激を受ける。
- ・クラスやグループのみんなと、一つのことに向かおうとする雰囲気が生まれる。
- ・係の仕事や運動会の準備などの役割を担うことで充実感を味わう。
- ・園内外の自然にかかわる中で、興味をもって見たり、触れたり、調べたり、作ったりすることを楽しむ。

保護者としての留意点・役割等

- ・年長児として運動会をリードする意欲を見守り、子どもの負担になるような過度の期待は避けるようにする。わが子なりにがんばっていることをほめる。
- ・戸外の遊びや運動遊びをするのに適した気候である。長縄を回したり、子どもと一緒に鬼遊びをしたりして、保護者も体を動かす心地よさを味わう。
- ・運動会のボランティアとして、運営補助や保護者競技の企画運営に参加することで、子どもと共通の話題を作り、運動会がより楽しみになるようにする。
- ・親子競技、保護者競技に積極的に参加して、保護者もともに楽しむ。
- ・運動会や遠足などで、年少児と手をつないだり、世話をしたりする役を担うことが多くなる。成長感ももてる温かい言葉かけをして、優しい思いやりがはぐまれるようにする。
- ・自分の力を自分なりに感じるので、「それでいいんだ」「がんばったね」など、結果より過程を大事にしたコメントをしながら、わが子なりの成長を伝え、常に安定した気持ちになるようにする。

*保護者をサポートする際のポイント

- ・運動会の役割に対して、一人ひとりの思いや気構えに個人差がある。その子なりの取り組みを支えたり、認めたり励ましたりすることで自信がもてるようにすることがポイントであることを伝える。
- ・自己主張がぶつかり合い、トラブルも多くなる。子ども同士で言い合う様子、かかわる様子をできるだけ見守りながら、子どもたちで問題が解決できるように、子どもの思いをくみとるかかわりをする。また保護者に状況を伝える。
- ・運動会などの行事では、できるだけメディア撮影をせず、肉眼で見たり大きな声で応援したりする。そのことが子どもの励みになることを伝える。
- ・木の実やマラカスや壁かけを作るなどして楽しめるので、家庭でも自然物を使って一緒に活動するようにすすめる。
- ・園としての指導の方向と、その過程の姿を保護者に話し、結果だけでなく過程が大事な意味をもつことを、具体的な様子やエピソードを交えて話し、保護者の理解が深まるようにする。

その他

- ・運動会
- ・園外活動（遠足）
- ・いも掘り

指導内容

- ・自分のイメージに合うものを作るためには、いろいろな素材を工夫すればよいことがわかり、目的達成に向けてあきらめずに取り組む。
- ・共通の目的に向かって友達と考えを出し合い、一つのものを作り上げた充実感を味わうとともに、力を合わせることを実感する。
- ・相手の言動に対応して動いたり、気持ちを考えたりして、友達とのつながりを深めていく。
- ・してよいこと、相手がいやがることなどと自分の行動の関係がわかり、場面や状況を理解して動く。
- ・身近な自然や栽培物などにかかわる中で、季節の変化を感じとったり、自然の不思議さを感じたりする。

子どもの意識・心理状態

- ・運動会でそれぞれが自分なりに力を発揮した満足感や、行事を終えた解放感を味わっている様子が見られる。
- ・ドッジボールやサッカーなどはルールを理解に差はあるものの、クラスの誰もが参加できる共通の場となっている。
- ・数人の友達と遊び方を考えたり、伝え合ったり、動きや言葉のやりとりを楽しんだりしている。
- ・友達と過ごす楽しさが具体的な動きに表れるようになり、友達の言動を意識するようになっている。
- ・木の実や種などの自然物を使って、いろいろなものを作り出すおもしろさを感じている。

保護者としての留意点・役割等

- ・小学校就学時検診があり、学校生活のことが家庭で話題になることもあるので、負担にならないように、よい励ましをする。
- ・就学時検診の通知をともしながら、期待がもてるようにする。
- ・小学校は、子どもにとっては楽しみでもあり、緊張感もある。「来年は学校なのだから、もっとしっかりしなさい」と言うことが、子どもによってはプレッシャーになることを自覚する。
- ・小学校生活へ期待がもてるように話題にして、生活習慣や態度を見直す。
- ・友達関係が深まってくると、思いの行き違いや力関係のトラブルも増えてくる。ふだんと違う様子が見られたら、早めに園に相談する。
- ・絵本や物語、音楽などに触れ、豊かな感情をはぐくむようにする。

その他

- ・焼きいも会
- ・園外活動（遠足）
- ・お楽しみ会

*保護者をサポートする際のポイント

- ・就学に対して不安を感じる際には、園での様子を話したりして、担任や園長に相談すること、また子どもの発達状況について著しく不安がある場合は、専門機関との連携も必要である。
- ・就学時検診は、子どもが自分の名前、保護者の名前、住所、電話番号などが言えるか、返事やあいさつができるかなど、生活全体を見直すよい機会である。わが子と確認するようアドバイスをする。
- ・就学を意識して、文字や数、ものの性質など知的な面での好奇心も出てくる。教え込むのではなく、興味をもつような言葉かけをしたり日常生活の中で学べるようにしたりする方が成果が上がることを伝える。

（例えば食器を数えてそろえる。おやつを同量にわける。曜日、時間を意識するなど）

指導内容

- ・友達と言葉や動きを交わしながら、それが絡み合うと
いっそう楽しくなることを感じ、互いの存在を大事に思う。
- ・曲想やリズムを感じながら表現したり、工夫して合奏したりして、
音や声が響き合う心地よさを感じる。
- ・クラスの友達との活動を通して自他の存在を認識し、
互いに認め合うことの大切さを感じる。
- ・身のまわりの出来事や社会事象に興味や関心をもつ。

＊＊
心理
状態
意識

- ・グループの友達と一緒にごっこ遊びや、製作、合奏など、一つのことに取り組むようになってくる。
- ・クラスの話し合いにも、自分のこととして関心を持ち、聞いたり意見を言ったりする。
- ・友達の言動に意識を向け、受け入れたり思うことを話したりするが、うまく自分を表せずにかたがたり、
がまんしたりすることもある。

保護者としての留意点・役割等

- ・日本の伝統行事を生活の中に取り入れ、子どもとともに動き
ながら日本の特性（らしさ）を伝える。
- ・友達とのやりとりで、相手と折り合いをつける体験が大切で
あることを理解し、家庭でも生活のルールを増やし、子ども
の意見を聞いて折り合いをつけながら生活を進める。
- ・お楽しみ会や楽器遊びなど、クラス全体で取り組む活動が増
えてくる。がんばっている姿や、できるようになったことを
具体的に認め、子ども自身が成長を感じられるように表す。
- ・冬休みの過ごし方の留意点を理解し、子どもとともに安全に
留意して生活をする。
- ・大掃除の手伝いは十分でなくてもわが子なりのがんばりを認め、
役に立つ喜びが感じられるようにする。
- ・年末は忙しい時期なので、子どもの方に少しでも注意が向く
ようにする。
- ・年末年始の伝統行事を生活の中に取り入れて、子どもが意識
してかかわれるようにする。正月の意味を生活の行事を通し
て伝える。
- ・正月遊びを、子どもがルールを学ぶ機会となるようにする。
- ・小学校の健康診断を機に小学校生活に期待がもてるような会
話をする。準備は子どもと一緒にする。

＊保護者をサポートする際のポイント

- ・友達と一緒に協力している姿、相手を意識した動きなどを具体的にしたり、
聞いたりする機会がある。また、自分
としての工夫も多くなるので、家庭で
も話題にして、成長をともに喜ぶよう
に助言する。
- ・トラブルの場面では、相手に自分の思
いが出せるように後押ししたり、しっ
かり聞くように促したり、相手の気持
ちに気づくように仲立ちしたりする。
また子どもたちの状況を、できるだけ
家庭に詳しく伝える。
- ・生活の中でも自分の要求との折り合い
をつける体験ができるようにする。テ
レビやゲームの時間、片付けなど、子
どもとともに決めるように家庭に伝える。

その他

・もちつき

指導内容

- ・自分の目的やグループの共通の目的に向けて、十分に力を発揮しながら
最後まで取り組む。
- ・友達とチームに分かれてルールのある遊びに取り組み、作戦を考えたり友達の動きに
応じて自分の動きを考えたりして遊びを進めるおもしろさを実感する。
- ・自分の目的を達成した喜びを感じるだけでなく、友達の喜びもともに味わう。
- ・文字、数、言葉、記号などへ興味・関心を持ち、それらを使った遊びを楽しむ。

子
ども
の
意
識
・
心
理
状
態

- ・正月を迎えて一年生になるという意識が出てくる子どもも多く、全体的にはつらつとした表情である。
- ・難しいことでも取り組んでみようとする意欲が感じられる。
- ・友達のよいところに気づいて素直にほめたり、いやな思いをしたことを相手にはっきり伝えたりする
ようになり、それを受け止めて動く姿も見られる。
- ・ドッジボールやサッカーなど、ルールを守る意識には個人差があり、トラブルが起こると抜ける子ども
もいて、まだ持続しないときもある。
- ・文字を読んだり書いたりすることへの興味が高まり、絵本を作ったり、
友達同士で手紙を書き合ったりする。
- ・友達と相談して劇、OHP、人形劇などの表現活動を始める。オリジナルの話ができることもある。

保護者としての留意点・役割等

- ・正月は親戚や近所の人とのあいさつがある。自分から
しようとする気持ちを大切に。また保護者が手本
となり、あいさつをする。
- ・家族ですごくやかたをするを通して、ルール
を守って遊ぶと楽しさが増すことを実感したり、負け
て悔しい思いを体験したりしている。保護者はゆとり
をもって接する。
- ・文字や数への興味・関心も高まり、質問が多くなる。
子どもから聞いてきたときが学びのチャンスでもある
ので、できるだけこたえるようにする。
- ・園が始まる前に早寝・早起きのリズムを立て直してお
く。
- ・グループの表現活動のことが家庭でも話題になり、他
の保護者から情報が入ることもある。友達関係の葛藤
もある。子どもの話をよく聞いて、受け止める。
- ・文字や数に関しては保護者が焦らずに、それがあると
便利、使えると楽しいなど、必要感が感じられるよう
にする。また早く覚えればよいとは限らないので、興
味・関心に即してわが子のペースで学べるようにする。

＊保護者をサポートする際のポイント

- ・「今年が小学生」と気持ちを新たにならねばろう
とする子どもの思いを受け止めて、手伝いや身
のまわりのことなど、できるところから始める
ように助言する。
- ・正月遊びを通して、ルールや順番を守ることや、
勝敗を通して葛藤を乗り越える体験をしている
ので、子どものうれしさや悔しさを受け止め、
次への意欲をはぐくむことが大切であることを
伝える。
- ・昔の遊びは、祖父母や地域の人、親子の交流の
場となる。その交流の中では優しくされる体験や、
自分を受け止められ安心できる体験が期待でき
るので、家族のきずなを深められる場にするこ
とを助言する。
- ・グループ活動の中で子どもが力を発揮している
様子を具体的に伝え、子どもの可能性を見つめ、
期待をもつことが大切であると実感できるよう
にする。
- ・お年玉のお金の使い方は親子で話し合っ
て決める。お金の価値を知らせるよい機会となることを伝える。

指導内容

- ・自分のめあてや友達との共通のめあてに向けて取り組み、友達との関係の深まりを感じたり、互いのよさに気づいたりする。
- ・グループやクラス全体で一つの目的に向けて協力して取り組み、それぞれが十分自分の力を発揮してやり遂げた充実感を味わう。
- ・4歳児に年長児としての活動の仕方を伝えながら、自分の成長を実感する。
- ・先生の話最後まで聞き、約束の時間などを守って行動しようとする。

子どもの意識・心理状態

- ・力関係が変化して、得意なことやリードしたり助けあったり、相手に合わせたりして、遊びを楽しく進めようとする心もちがうかがえる。
- ・子ども会を通して、友達のよい面に気づいて素直に認め合う言葉かけが増え、友達とやり遂げた満足感、充実感を味わい自信が出てくる。
- ・先生話を自分のこととして聞く意識がさらに高まる。
- ・もうすぐ一年生ということが話題になり、期待と不安がある。
- ・4歳児へ、動物の世話や当番活動を引き継いでいく。

保護者としての留意点・役割等

- ・生活に見通しをもって行動するようになり成長を感じる時と、感情のコントロールがまだまだ思うときがある。小学生になることに不安があり、登園をいやがるなど感情が不安定になる子もいる。保護者自身も、不安に思うことや気になることが出てきたときは、早めに担任に相談し、子どもへの励ましの言葉も多くかけるようにする。
- ・入学に備えて集中できる環境を作る（テレビを消す。集中しているときはやたらに話しかけない。聞いてきたことにはきちんと答えるなど）。
- ・子ども会の活動を通してわが子の成長を肯定的に受け止めて、喜びを言葉に表し自信をもたせる。
- ・家庭でも冬ならではの自然現象（氷、霜柱、白い息など）に目が向くようにする。
- ・時間にゆとりがあるとき、または休日などを利用して、親子で通学路の確認をする。その際、危険箇所、してはいけないことなどを繰り返し約束し、安全確保に努める。

*保護者をサポートする際のポイント

- ・子ども会当日までの取り組みの様子（子どもの柔軟な発想や友達と協力したことなど）を伝え、わが子の成長を素直に喜び、子どもに伝えられるように助言する。
- ・小学生になることが楽しみとして受け止められるように、また成長したことを実感できるように「友達に優しいね」「自分でできることが増えたね」「自分の思いが話せたね」など、具体的な言葉で伝えられるようにモデルとして示す。
- ・友達と別れることを悲しんでいるのか、見通しがもてないことに不安があるのかなどを把握して、心配なことは早めに相談するように助言する。

その他

- ・節分
- ・つくしんぼの会（子ども会）

指導内容

- ・友達と活動しながら自分の力を十分に発揮する中で自分のよさや友達のよさに気づき、それらをいかし、協力してやり遂げる。
- ・一年生になるという自覚と喜びを感じ、修了（卒園）に向けて見通しをもって園生活を進めていく。
- ・さまざまな活動を通して自分の成長を感じ、周囲の人々に感謝の気持ちをもつ。

子どもの意識・心理状態

- ・子ども会で力を発揮した充実感の中で、伸びやかに遊んでいる。
- ・クラス全体にたくましさを感じられ、生活に見通しをもって行動し、落ち着きが見られる。
- ・生活習慣の面では、着実にできるようになってきた子がほとんどであるが、忘れたり、いい加減になったりしている子もいる。
- ・修了（卒園）に向けての準備や活動を進める中で、友達のよさを言葉に表して、気持ちがひとつになる。
- ・みんなの前で話したり、椅子に座って話を聞いたりすることが増え、自分の感情もコントロールしようとする。
- ・遊んだ場所や公共の場所を片付けることが、手早くできる。
- ・もうすぐ一年生という思いと、もうみんなと別れるという思いが交錯して、寂しがる子もいる。
- ・草花の芽生えや陽だまりを感じたり、カエルの卵を発見したりして、春の季節を感じる。

保護者としての留意点・役割等

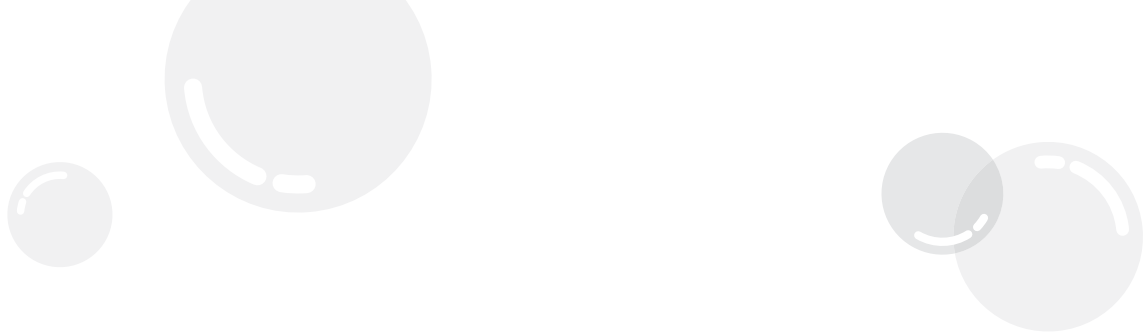
- ・子ども会をやり遂げた満足感から、自信のある言動が多くなっている。わが子を頼もしく感じ、頼りにしたり任せたりする場も工夫する。
- ・小学校へ入学する前の心構えを担任や小学校の先生から聞き、不安に思うことは解決しておく。
- ・保護者同士で相談して子どもの修了（卒園）を祝う会を企画し、みんなで祝う気持ちを大切にする。
- ・修了（卒園）を間近にして保護者が協力して園の大掃除をし、感謝の気持ちを表す。
- ・春の自然の息吹から、門出と新しい出発の喜びが伝わる。子どもにもその喜びが感じられるようにゆったりとかかわる。

*保護者をサポートする際のポイント

- ・自分の思いを言葉で伝えることができるようになるには家庭生活が大切であることを伝え、保護者自身が会話などを見直すようにする。
- ・保育園生活を振り返る機会である。感傷的にもなるが、成長を言葉に表してわが子に伝え、世話になった人に感謝の心を表すことが大切であると伝え、保護者自身がモデルであることが自覚できるようにする。
- ・修了（卒園）式のビデオ撮影は雰囲気壊さないようにする。自席から行う、あるいは禁止など、園の方針を明確に伝え、協力が得られるようにする。そのことが子どもたちの最後の活動を有意義なものにするのだと伝える。

その他

- ・ひなまつり
- ・園外活動（遠足）
- ・就学祝い会【修了（卒園）式】



Handwriting practice lines consisting of 12 horizontal dashed lines.

